学びのひろば旭

vol.83

旭市教育委員会
庶務課（☎55-5721）　生涯学習課（☎55-5727）
学校教育課（☎55-5724）　体育振興課（☎64-1132）

体育館などの耐震対策が完了

東日本大震災では、学校施設の体育館の天井や照明器具が落下する被害が多数発生しました。本市でも体育館で天井が落下するなどの被害があり、避難所として利用できなかったため、非構造部材※の耐震対策を進めてきました。

耐震対策工事の経過

東日本大震災後に、専門家による市内小中学校の体育館や武道場の点検調査を行い、優先度の高い建物から順次工事を進め、令和２年６月に全ての工事が完了しました。

建物内部の対策例

武道場の天井の対策として、重量のある天井を撤去した後、建築基準法に適合する軽量な天井に改修し、照明器具にも落下防止対策をしました。耐震対策に加え、照明器具のLED化をすることで、明るさも増しました。

二中武道場の対策前

対策後

建物外部の対策例

落下防止対策として、外壁面に発生したひび割れやはがれを補修する外壁改修工事を行い、校舎周辺の安全を確保しました。塗装で仕上げることで、校舎の景観も良くなりました。

二中校舎の対策前

対策後

今後の維持管理

学校施設の耐震対策は完了しましたが、避難所となる体育館が多く、開放学校施設としても利用されるため、学校と協力しながら日常の点検とメンテナンスを行い、子どもたちや地域の人が安心して利用できる施設を維持していきます。

※非構造部材とは、柱や床などの建物の骨格となる構造体以外のもので、例えば天井や壁材などです。また、体育館内のバスケットゴールや照明器具なども非構造部材です。

あさひ輝いた人々 第24回

地元を愛する彫刻家

川口 龍僊（かわぐち りゅうせん）（1887～1948年）

川口龍僊は、彫刻家として多くの作品を作り、現在の日本美術展覧会にあたる帝展で数々の栄誉を受けたほか、外国にもその作品が輸出されました。

明治20(1887)年に大塚原で生まれ、幼名は種蔵といいました。幼少の頃より絵画や彫刻に優れており、10歳の時に小刀で彫った大黒天像は見事な出来栄えで、専門家が驚いたといいます。

明治36(1903)年、和進（わしん）小学校(現在の豊畑小学校)を卒業後、上京して彫刻界の第一人者である金田兼次郎に入門しました。その後、地元を愛していた龍僊は、亡くなるまで故郷の大塚原で暮らし、作品作りに精を出しました。

大正５(1916)年「盲人渡河の像」を美術協会展で発表して以来、帝展に毎回入選入賞し、特に高い技術力を必要とする象牙彫りの美しさは、国内外に知れ渡るようになりました。

大正15(1926)年、帝展に「裏の畑」を出品した際、日本画家の横山大観がその技の素晴らしさに驚いたといわれています。この作品は帝展特賞に輝きました。

このほかにも、柿本人麿（かきのもとのひとまろ）像、恵比寿・大黒像、五百羅漢、九十九里浜地引の図などが有名です。その作品の中でも、長さ２メートル余りの象牙彫りの大作である九十九里浜地引の図は、ベルギー政府の要望によって買い上げられ、両国親善に大きく貢献しました。

ベルギーに買い上げられた九十九里浜地引の図